

広島・豪雨災害被災者支援の交流対策会議 開く

被災者と共に、支援制度の拡充へ



日本共産党広島県委員会は7月18日、広島市内で「豪雨災害被災者支援の交流対策会議」を開催し、地方議員など50人が参加しました。

会議は災害対策本部長の高見あつみ氏の挨拶に続き、村上昭二県委員長が被災状況や被災者支援活動の現状について報告。さらに穀田室の岡部秘書、大平喜信前衆議院議員が被災者支援に関する国の制度や全国の到達を報告しました。(写真)

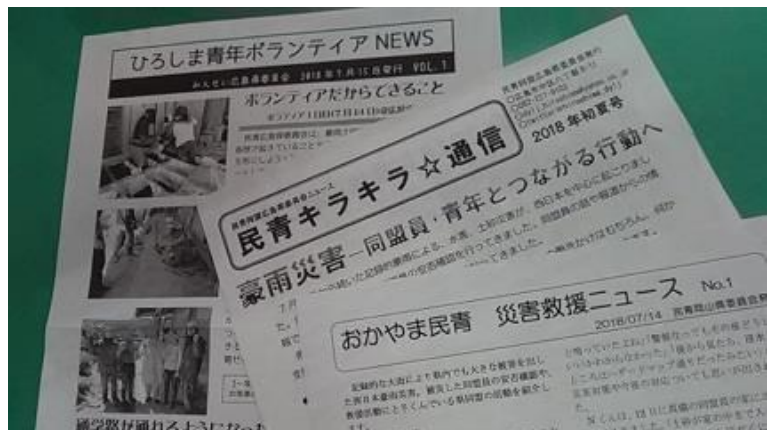
会議では、各地の議員から、被災の現状や罹災証明の発行、住宅の被害認定、

避難所の生活環境の改善などの取り組みが交流されました。そして、みんなの奮闘で、被災者支援の新しい到達を築こうと誓いあいました。

会議には仁比室の秘書も参加しました。

青年ボランティア 「何かしたいという思いを形に」と大奮闘

被災地の各地では民青同盟の若者たちの「青年ボランティア」が活躍しています。青年たちは、初めての被災地に向き合いながら、「何かしたいという思いを形に」と猛暑のなかを頑張っています。民青の岡山県委員会と広島県委員会はそれぞれ「ボランティアニュース」を発行して励ましあっています。(写真)



岡山のニュースには「安否確認に奔走」「災害後はじめての班会」「被災した同盟員の家に手伝いに」などの活動が紹介されています。広島のニュースでは「同盟員から聴いた被災地の現状」「ボランティアだから出来ること」「通学路が通れるようになった」などの活動が紹介されています。

明日、7月20日は中国ブロックいっせい宣伝です。今回は「豪雨災害の救援募金」として取り組みます。